World Snowshoe Federation (WSSF) Championships 2020 in Myoko

WSSF スノーシューイング世界選手権
妙高

2020年2月15日～16日

主催:日本スノーシューイング連盟/妙高市池の平温泉観光協会

スノーシューイング世界選手権大会へのご協力・ご協賛のお願い

2019年3月30日

日本スノーシューイング連盟
〒791-8016 松山市久万ノ台594-3 Tel 089-916-6041 Fax 089-925-6388
E-Mail: contact@japansnowshoeing.org Web: https://japansnowshoeing.org
https://www.facebook.com/snowshoeingrace/

企画趣旨

日本スノーシューイング連盟と妙高市池の平温泉観光協会は、かねてより2020年度の世界スノーシューイング連盟（WSSF:World Snowshoeing Federation）公認の世界選手権大会（World Championships）開催に立候補しておりましたが、このほどイタリアで開催された世界スノーシューイング連盟の総会で開催が決定いたしました。詳細につきましては、添付の大会概要、及び当連盟HP japansnowshoeing.org掲載の世界選手権[2018]inスペイン、国内シリーズ戦in妙高[2019]の各動画をご参照下さい。

この世界選手権には、北米、欧州を中心として世界10ヶ国以上からからスノーシューイングのトップ選手（その多くはトレランなど他の競技でもトップクラス）100名近くが参戦する予定です。これを機に、より多くの日本の選手が、その迫力ある走りを体感し、刺激を得、日本でのスノーシューイング競技が飛躍的に発展することが期待されます。

スノーシューイング・レクリエーションは、スノーシューのみならず、ウエア、シューズ、パックなど、装備のすそ野が極めて広く、魅力ある市場に育つ可能性を秘めています。スノーシューイング競技はそのコアとして、そしてカッティング・エッジとして、このレクリエーション全体の発展に大きな影響力を与えるものです。

また、スノーシューイング競技には、マラソン、トレラン、トライアスロン、バイアスロン、アドベンチャーレース、オリエンテーリング、マウンテンバイクなど準メジャー・スポーツ・ジャンルのトップ選手達が、冬季のトレーニングとして、そしてレクリエーションとして参戦してきており、スノーシューイング分野でのマーケティング活動は巨大なスポーツ・ライフスタイル人口にも影響を与える存在になりつつあります。女性アスリーツとしましては、当連盟国内シリーズでも活躍中の「スカイランニング世界選手権日本代表」星野由香理さん、「信越五岳100マイル[2018]優勝」高島由佳子さん、「日本山岳耐久レース[2018]優勝」髙村貴子さん、数々のMTB・ロードレースで優勝中の「ナショナルジュニア女子の強化指定選手」渡部春雅さんが当世界選手権に参加予定です。

地域振興の観点から、この世界選手権を見た場合、妙高市は既に一部の国から注目され、近年多くの観光客が訪れるようになっていますが、世界10ヶ国以上の主として降雪国から集う選手達のSNS等を通して、さらに多くの国々、そして人々にその存在と魅力を知らしめることになります。

皆様におかれましては、当世界選手権にご協力・ご協賛頂き、是非このムーブメントを支えて頂ければ幸いです。

〖 添付資料 ・動画リンク 〗

- 「WSSFスノーシューイング世界選手権[2020]in妙高」大会概要
- 「日本スノーシューイング連盟について」
- 「協賛メニュー」
- 「 スノーシューとスノーシューイングの歴史」
- 動画：世界選手権 [2018] in スペイン
- 動画：国内シリーズ戦in妙高[2019]スライドショー
- 動画：国内シリーズ戦in妙高[2019]イン・アクション・ビデオ

WSSFスノーシューイング世界選手権 [2020] in 妙高

大会概要

WSSF World Snowshoeing Championships [2020] in Myoko, Japan
Race Information

[大会名称 / Event]
世界スノーシュー連盟公認「スノーシューイング世界選手権 [2020] 」
兼「第22回全日本山岳スノーシューイング・レースin 妙高 [2020] 」
WSSF World Snowshoeing Championships [2020] in Myoko, Japan
Also serve as
The 22nd All Japan Mountain Snowshoeing Race in Myoko [2020]

[主催 / Organizer]
日本スノーシューイング連盟、妙高市池の平温泉観光協会
Japan Snowshoeing Federation, Myoko City Ikenotaira Onsen Tourism Association

[後援 / Supporters' Organization]
新潟県、妙高市、 池の平温泉区協議会、一般社団法人 妙高ツーリズムマネジメント ・・・ (予定)
Nigata Prefecture, Myoko City, Ikenotaira Onsen District Council,
Myoko Tourism Management ・・・(plans)

[主管 / Leading Federation]
池の平スノーシューイング・ガイド協会
Ikenotaira Snowshoeing Guide Association

[開催趣意 / Event Objectives]
スノーシューイング競技の世界での普及に貢献すると共に、日本での普及の起爆剤とし、妙高市をその中心に位置付ける。
To contribute to promoting the snowshoeing race in the world, and also to serve as a catalyst for promotion in Japan, making Myoko City the center of the movement

[期日 / Dates]
2020年2月15日（土）～2月16日（日）
Saturday, February 15 - Sunday, February 16, 2020

[会場 / Venue]
池の平市スポーツ広場
(妙高市大字関川2428番地2) TEL(0255)86-5500)
Ikenotaira Sports Square
(Myoko Oaza Sekikawa 2428 address 2) TEL (0255) 86-5500)

[種目 / Disciplines]
World Team Relay : 4 x 400m (Saturday, February 15, 2020/mix of men and women)
Middle-distance Race : 5Km (Sunday, February 16, 2020/To be awarded under Int'l age group classes)
Long-distance Race : 12Km (Sunday, February 16, 2020/To be awarded under Int'l age group classes)

Prepared by Japan Snowshoeing Federation April 14, 2019

協賛メニュー

協賛メニュー						
	メニュー	A（1社）	B（3社）	C（5社）	D（10社）	E（10社）
1	大会実施要綱への企業名記載	●	●	●	●	●
2	大会ポスター及びチラシへのロゴ掲載 ※1	●（特大）	●（大）	●（中）	●（小）	
3	ナンバーカードへのロゴ印刷 ※1	●（大/12K）	●（小/5K）			
4	大会 WEB サイトへのバナー掲載 ※1	●（大）	●（中）	●（小）		
5	大会 WEB サイトへのロゴ掲載 ※1	●（特大）	●（大）	●（中）	●（小）	
6	大会名義使用権（諸媒体において大会協賛 PR が可能）	●	●	●	●	●
7	スポンサーブースの設置（希望される場合）※2	●（12mx3m）	●（6mx3m）	●（3mx3m）		
8	のぼり旗の設置（会場・コース／旗は貴社でご用意）	●（80本）	●（40本）	●（20本）	●（10本）	●（5本）
9	Start ゲート柱へのバナー掲載（バナーは貴社でご用意）	●（大）	●（中）			
10	横断幕（Start・Finish 付近／幕は貴社でご用意下さい）	●（4枚）	●（2枚）	●（1枚）		
11	横断幕（コース上／幕は貴社でご用意下さい）	●（4枚）	●（2枚）	●（1枚）		
12	横断幕（会場周辺／幕は貴社でご用意下さい）	●（4枚）	●（2枚）	●（1枚）		
13	距離表示看板への企業名・ロゴ掲載 ※1	●	●			
14	Finish テープへの企業名・ロゴ掲載 ※1	●	●			
15	ステージバックパネルへの企業名・ロゴ掲載 ※1	●	●			
16	インタビューバックパネルへの企業名・ロゴ掲載 ※1	●	●			
17	参加キットへの PR チラシ同封（1点）	●	●	●	●	●
18	特別賞の設定 ※3	●	●	●		
19	大会プログラム (A4) への企業名・ロゴ掲載 ※1	●（特大）	●（大）	●（中）	●（小）	
20	大会プログラム (A4) への広告掲載（版下は貴社にてご用意）	●（1頁）	●（1/2頁）	●（1/4頁）		
21	大会参加枠の提供（希望される場合）	●（4名）	●（3名）	●（2名）	●（1名）	
22	優勝ウェアへの企業名・ロゴ掲載	●				
	提供賞品（小売定価換算）※4	100万円	50万円	25万円	12万円	5万円
	ご協賛金額	200万円	100万円	50万円	25万円	10万円

※1：各サイズ及びレイアウトは当連盟で決定させて頂きます。ロゴまたはバナーは貴社にてご用意ください。
※2：ブースの広さはおよそです。最終的な広さ、レイアウトは、これに準じて当連盟で決定させて頂きます。
※3：入賞者への副賞をご提供頂ける場合、プレゼンターとして表彰式に参加可能 / 順位以外の表彰（仮装賞等）を貴社の名前の賞として設定。
※4：金額は目安です。ご協賛金と合わせてご提供いただければ幸いです。

※このほか皆様の諸ご要望の相談にも応じさせていただきますので、お気軽にお尋ねください。
※お支払方法：お申込を当連盟でお受けさせて頂いた段階で、請求書をお送りしますので、指定の口座に 30 日以内にお振込みください。
※当メニューは印西スマイルマラソンを参考にさせて頂きました。

スノーシューと
スノーシューイングの歴史

スノーシューの起源はスキーと同じく約6000年以上前の中央アジアです。ヨーロッパに渡り、滑りに適して細く長くなったのがスキー。シベリヤ経由北米に渡り、歩くのに適した形に発達したのがスノーシューです。生活の中心が比較的平坦な地形であったためと考えられ、長い間原住民の間で冬場の猟などの移動手段として重要な役割を果たしてきました。写真や映画のシーンなどで目にする、木の枠に獣皮から作った紐を網の目状に張ったものです。

このスノーシューがレクリエーション用として米国で脚光を浴びるようになったのは1980年代。フレームが航空機用のジュラルミン、獣皮の代わりにハイパロンという耐久性に優れた合成布を張ったハイテクなすノーシューが開発され、走れるまでになったからです。走ることを可能にしたのは、素材の進歩だけではなく、画期的なビンディングの誕生です。これまでスノーシュー上に固定されていたビンディングが独立し、ピボットと呼ばれる軸を中心に、歩行に合わせて上下に適度な角度で回転できるように改良され、快適に歩き、走れるまでになったのです。

1990年代には、この道具としての近代的スノーシューを使った米国発のアクティビティ（スポーツ）「スノーシューイング」が、急速に世界に普及していきました。2000年代に入ると、スノーシューイング競技の組織化も進み、日本では1999年に当連盟が誕生し、2010年には、当連盟が創設メンバーとなり、世界スノーシューイング連盟が誕生。世界招待大会WORLD INVITATIONALを2010年冬季オリンピックに合わせてカナダのバンクーバーで、2011年には妙高市で開催。この大会が2012年から世界選手権WORLD SNOW SHOEING CHAMPIONSHIPSへと発展することとなりました。

©日本スノーシューイング連盟

日本スノーシューイング連盟について

【 設立趣旨 】

カンジキというイメージしかなかったスノーシューが、素材の進歩と人間工学の導入によってこの十年間にアメリカで飛躍的な進化を遂げ、ウォーキングは勿論、急峻な登坂や、長距離を走れるまでになり、単なる雪上の歩行補助器具ではなく、雪上をウォーキング、ランニングするスノーシューイングという新しいスポーツを生み出しました。雪上でのウォーキング、ランニングはローインパクトで、運動量も倍加し、エアロビクス運動としても優れており、冬期の運動兼レクリエーションとして最適です。また、雪上での機動性を増すことによって、登山や、スノーボーディング、自然観察をより快適に行うことができます。しかも、誰でも簡単に使えるので、多くの人達が雪の自然に親しみ、自然の素晴らしさと大切さを体感することができます。しかしながら、スノーシューイングはゲレンデ・スポーツと異なり、冬の厳しい大自然の中で行われることが多く、体力のみならず、自然やフィールドマナー、さらに安全に関する知識、経験と心配りが要求されます。
これらのスノーシューイングの特質を十分理解した上で、私達はスノーシューイングを自然を傷めることのないスポーツ、及びレクリエーションとして普及させ、心身の健康の増進と、自然と親しむ余暇活動の発展を図るために当連盟を設立するものです。

【 沿革 】

スノーシューイングは、誰でも雪の自然に優しく接し、親しむことのできるレクリエーションです。より多くの人々が自然に親しみ、その価値を知ることが、自然保護の大切な一歩でもあると考えます。このため、当連盟は1999年の設立以来、スノーシューイングの多角的な普及に努めてまいりました。

スノーシュー・ウォーキングでは、一般の方々や山岳指導者を対象とした数多くの講習会や、冬の自然を楽しむ自然観察ツアーを主催し、今日の礎に貢献してまいりました。また、スノーシューイングには欠かせない山での安全確保の分野では、その重要性を多くのメディアを通して訴えるとともに、山岳救助の現場でのスノーシュー活用の普及や、山岳医の養成プログラムなどにも貢献しております。

スノーシュー・ランニングでは、1999年2月に日本で最初のススノーシューイング・レースを日光で開催して以来毎年同レースを開催し、2009年からは全日本スノーシューイング・グランプリシリーズとして複数の加盟大会によるシリーズ戦化を図るなど積極的に取り組んだ結果、本格的な競技スポーツとしてグランプリチャンピオンを目指す選手も増えてまいりました。一方、健康づくりを目指すレクリエーションとしてスノーシューイング・レースを楽しむ方々も増えております。

そこで、2016年度からは、第1回の開催地でもあり、関東のアスリーツも参加しやすいという地の利もある日光大会が加盟し、さらに2019年度には奥志賀大会が加盟し、白山、妙高、日光、奥志賀の4大会構成となり、今後さらなる発展が期待されております。いずれも、自然に優しいランであるスノーシューイングだからこそ許され、走れ、楽しめる、国立公園内のコースです。トップアスリーツから市民アスリーツまで、マラソン、トレラン、トライアスロン、アドベンチャーレース等あらゆるスポーツジャンルから、男女・年齢・経験を問わず多くの皆様の参加をお待ちしています。